

2025 年度大学コンソーシアム京都
プロジェクト企画実践コース
プロジェクト報告書

株式会社インサイトハウス

2025年11月11日 プロジェクト活動報告

1 初めに

私たちは、6月末から11月上旬にかけて株式会社インサイトハウスで「きょうのやましさん」というプロジェクトに取り組んだ。このプロジェクトは、地域の魅力を再発見し、広く発信することを目的として始まった。特に、普段はあまり注目されない地域の方々の思いや取り組みを知り、それを学生の視点から伝えることを目指した。私たちは「山科の魅力を形に残す」という目標を掲げ、取材や本制作を通して地域と深く関わる活動を行った。本報告書では、この期間に実施した活動の内容と成果についてまとめ、報告する。

2 概要

2-1 株式会社インサイトハウスについて

株式会社インサイトハウスは、京都市山科区に2つの店舗を構える不動産会社であり、TOMOSU GROUP（トモスグループ）の一員である。TOMOSU GROUPは、「人の前に明かりを灯す」「『い』場所をつくる」という理念のもと、「皆が主役になれる社会の実現へ。」というビジョンを掲げ、さまざまな事業を展開している。事業内容は不動産だけではなく、お弁当事業やネイルサロン事業など多岐にわたる。その中でインサイトハウスは、「山科を“住みたいまち”ナンバーワンに。」という未来像を掲げ、地域とのつながりを重視した活動を行っている。

2-2 プロジェクトについて

本プロジェクト「きょうのやましさん」は、インターンシップに参加する大学生が山科のまちを歩き、地域の人々に出会い、インタビューを通してその魅力を発信する取り組みである。10年以上続く長期的な地域連携プロジェクトであり、SNSや紙媒体を通じて情報発信を行っている。

2-3 プロジェクトの目標

山科の魅力が十分に伝わっていないという課題を踏まえ、インサイトハウスが掲げる「地域とのつながり」を重視しながら、地域の人々の想いを様々な人に届けることを目的とした。最終的には、山科の魅力を発見・再認識できる制作物を完成させることを目標とした。また、参加した大学生2名のチーム目標として、「何事も楽しんで取り組むこと」を設定した。担当者の方から「まず自分が楽しむこと」という言葉をいただき、意識して取り組んだ。

3 活動内容

本プロジェクトでは主に、①インタビュー活動、②成果物である本制作の作成、③Instagramによる発信の3点を中心に活動を行った。

3-1 活動の流れ

7月8日 事前訪問

7月中旬 プロジェクトの方向性決定

7月28日～8月上旬 太田様によるコミュニケーション講座受講、インタビュー先へのアポイント取得 模擬練習

8月中旬～9月中旬 インタビュー実施 記事の作成

9月中旬～9月下旬 記事の作成

10月上旬～10月中旬 本作成

10月中旬～10月下旬 最終確認・入稿 本完成

11月上旬

11月中旬～下旬（予定） 本の配布（取材先）

3-2 インタビュー活動

活動の中心となったのは、山科で活躍する人々へのインタビューである。実施にあたり、まず担当者の方から「聴く姿勢」「相手が話しやすい雰囲気づくり」「質問の流れ」など、コミュニケーションの基本を学んだ。インタビューでは、インタビュアーと書記（兼カメラ担当）の2役を交互に務めた。

アポイントは電話・メール・Instagramの3つの手段で行った。特に電話では、伝える内容を事前に整理し、相手に分かりやすく伝えることを意識した。メールでは言葉の使い方やマナーを調べ、送信前に確認を行った。

初めてのインタビューは「雲のむこうはいつもあお空」様で実施した。最初とすることもあり緊張の中で質問の順序や表現に苦労したが、相手の反応から「どの質問が答えやすいか」を学ぶことができた。回を重ねるごとに、相手の表情やテンポを見ながら自然に会話を進められるようになった。

また取材先に向かうときや帰るときには突撃インタビューを実施し、「山科の魅力は何ですか？」という質問を通して多様な意見を集めた。「人情が熱い」「交通の便が良い」など、山科の人柄や土地柄に関する言葉が多く聞かれた。

3-3 Instagramでの発信

担当者の方の提案により、「きょうのやましなさん」のInstagramアカウントを活用し、インタビュー終了後できるだけ早く投稿を行った。投稿内容は、インタビュー時の写真とともに、取材相手の紹介や魅力について文章にまとめたものである。

3-4 本制作

形として残る成果物を作りたいという思いから、本を制作した。本の中にはインタビュー時の写真や印象的な言葉を掲載し、2～3ヶ月ごとに「山科の魅力」をまとめた特集ページを設けた。写真は自分達で撮った写真や他大学のインターン生から提供を受け、全体のデザイン構成も自分たちで考えた。

4 反省点

このプロジェクトを通して反省した点としては取材の段取りやインタビューの進め方である。相手に安心して話してもらうための雰囲気づくりや、質問の流れを考えることは容易ではなかった。また、限られた時間の中で内容を掘り下げるこことや、記事としてまとめる際に公平さと分かりやすさの両立を図ることにも時間を要した。

さらに、企業や団体との連携においても調整の難しさを感じた。こちらの意図を十分に伝えきれなかったり、相手の都合に合わせてスケジュールを調整する必要があったりと、現実的な課題も多くあった。こうした経験から、組織や立場の異なる相手と協働する難しさを実感した。

5 学んだこと

活動を通して得た学びは大きく三つある。

第一に、相手の話を丁寧に聞き取る「傾聴力」の大切さである。相手の言葉の背景や意図を理解しようとする姿勢が、より深いインタビューにつながった。

第二に、自分の意図を的確に伝える「表現力」である。記事を書く中で、限られた文字数の中に思いや情報をどう表現するかを考え抜くことで、言葉の選び方の重要性を学んだ。

第三に、取材・記事執筆・デザイン・印刷といった複数の工程を協働して進める中で、「チームワークの重要性」を強く感じた。お互いの得意分野を生かし合うことで、一人ではできない成果を形にすることことができた。

6 まとめ

今回のプロジェクトでは、形に残るものを作りたいという思いから本制作に挑戦した。取材やインタビューを通して得た地域の方々の言葉を形として残すことで、多くの人に山科の魅力を伝えたいと考えた。

活動を通して困難だったのは、取材そのものの難しさ、インタビュー内容を深めること、そして記事を公正で分かりやすく仕上げることだった。相手の想いを正確に伝えることの難しさを痛感し、言葉の重みを改めて感じた。

一方で、得られた学びも大きい。相手の話を丁寧に聞く傾聴力、自分の意図を的確に伝える表現力、そして仲間と協力して成果を生み出すチームワークの大切さを身につけることができた。これらの経験は今後の学習や将来の活動にも生かせる大きな財産となった。

今回の活動を通して、多くの方々に支えられたことを心から感謝している。

取材にご協力くださった地域の皆さま、制作にあたりご指導・ご助言をいただいた先生方、受け入れ先の方々、そして共に活動したメンバーの存在がなければ、このプロジェクト

トを形にすることはできなかった。

特に、取材先の方々が温かくお話を聞かせてくださったおかげで、山科という地域の魅力をより深く知ることができた。この経験を通じて得た出会いと学びを大切にし、今後も地域に貢献できるような活動を続けていきたい。